

## 「広島広幼会」

### 解散会挙行

広島広幼会幹事

高崎 禎夫 広幼48

主に高齢化による会員の減少によって、このたび、「広島広幼会」は、解散せざるを得なくなりました。

終戦75周年の今年、令和2年8月20日（木）午前10時、参集可能者〓日山至典会長（47期）とそのご子息・日山吉生さん、呉市よりの天野満輔（46期）さん、及び、私、高崎禎夫幹事（48期）の4名は、陸自海田市駐屯地に集まりました。

会の解散に当たって、私たちは、三つの行事を行いました。

一つ目は、同駐屯地において、第13旅団副旅団長兼海田市駐屯地司令篠村和也1等陸佐どのに、会として公式に表敬し、永年のご助力に対する謝辞を奉じること、二つ目は、埃宮（えのみや）に建立した「広幼戦没者慰霊碑」の諸霊に対して、会として最後の正式の「慰霊祭」を行うこと、三つ目は、鯉城濠端に残っている「広幼正門跡」に赴き、「広島陸軍幼年学校」の銘板のある主門柱に「献花」し、母校の広幼に対して、「黙とう」と、「校歌斉唱」を捧げること、です。

陸幼全6校中、唯一現存する、わが広幼新校本館正面に輝いていた「菊のご紋章」（直径89センチ、重さ15キロ）は、今、

陸自海田市駐屯地の「顕彰館」に飾られています。この「菊のご紋章」は原爆には遭っていません。終戦時、疎開先で埋設、27年後発掘、そのまた26年後の平成10年6月10日に、広島広幼会と海田市駐屯地の協力によって、吉田町歴史民俗資料館の倉庫から「救出」という、数奇の運命を経て、ようやく安住の地を得ているのです。この「菊のご紋章」には、明治天皇の幼年校に対するご「聖旨」〓志操堅確・品性高潔・學術優秀」がこめられています。

また、その「菊のご紋章」の膝下に設けられた「広幼コーナー」は、平成17年9月26日に、海田市駐屯地から広島広幼会へのお勧めによって設置されたものです。「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」、広幼は無くなっても「広幼コーナー」を残すのです、と私はこれまで、全国の広幼会で言って、貴重資料の寄贈を募ってきました。お蔭様で、いま、213点の寄贈資料が集められています。壁には、「阿南大将（4期）父子の別れ」、「山下奉文（4期）大将」、「パロン・西（竹一21期）」の油絵、それに偕行社から移された日比野勇次郎（旧校）「画」教官画「広幼旧校」、陳列ケース内には、桑木崇明（2期）中將の勲一等旭日章も飾られています。制服はもちろん、詔勅集、典範令、露語・独語教程も、各期の卒業アルバムも、揃っています。「広

幼コーナー」の存在によって、なお、私は、広幼の魂の継続を感じています。以上は、広島広幼会の海田市駐屯地への、並々ならぬ謝意の骨子でした。



(右の写真は、駐屯地司令ご来臨の下、「菊の紋章」と「広幼コーナー」の前で行われた広島広幼会・解散式の記念です)

「広幼戦没者慰霊碑」のある埃宮（えのみや）は、古事記・日本書紀の「神武東征伝承」に登場する、広島古社です。広幼新校歌の冒頭にも歌われています。「広幼慰霊碑」は、平成15年4月3日に、校内の肇国神社神苑にあった「紀元二千六百年記念」石柱を移設して、建立されました。広幼の戦没者は、総計416名（含原爆死者12名、高千穂丸3名）です。教職員12名、旧校卒業生193名

新校卒業・在校生211名です。このうち、新校当初の40・41・42期の戦没者計189名（含特攻13名）だけで、全体の半数弱を占めています。これら3期のそれぞれの戦没者の比率は実に約4割前後です。

埃宮の慰霊祭では、初めに、相模原市在住の奈良保男元全国広幼会副会長（47期、日本陸軍史研究）のお名前を付した、美しい花束が奉呈されました。花束の色は、この碑の傍らにある「みたま椿」（花の紅白が特攻隊の日の丸の鉢巻きを象徴する／奈良護國神社命名）にあやかる「紅白」を基調とするものでした。宮司さんの祝詞、私たちの黙とう、玉串を捧げるとの拝礼を受けて、広幼の精霊たちは、皆喜んで下さった、と思います。

最後の広幼正門跡でも、奈良さんからのもう一つの花束が、主門柱の「広幼」の銘板下に供えられました。こちらの花は、季節に相応しい「黄緑」を基調とするものでした。福島哲也前顕彰館館長のラッパ（国の鎮め）の下で、明治30年からの母校に、黙とうを捧げ、続く「広島大本営」「凱旋碑」を詠む旧校歌1番、「埃宮」「鯉城」を詠む新校歌1番3番の「校歌斉唱」も、なんとか声高らかに奉じ得て、このたびの「広島広幼会・解散会」の行事を、すべて、滞りなく、やり終えることが出来ました。なお、この広幼正門下での行事は、当地の「広島テレビ」の取材を受けています。